

香川高等専門学校

令和6年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和6年度 実績報告
<p>(1)入学者の確保 ①-1 (a) 入学希望者及びそのステークホルダーを対象とした香川高専webコンテンツの充実や、香川県下の各中学校長や進路担当教員との情報交換等により、効果的な広報活動を行い、香川高専の特長や魅力を積極的に発信する。 ①-1 (b) 国公立高等専門学校合同説明会に参加し、入学者確保の取り組みに努める。</p>	<p>(1)入学者の確保 ①-1 (a) 本校の公式 YouTube チャンネルを利用し、本校学生が作成した学生募集動画を公開した。Instagramにおいても入試イベント等の案内や日々の学校行事について情報発信している。また、教員による中学校訪問(中学校主催の行事「高校説明会」にて、中学校校長並びに進路担当教員と情報交換を密に行い、香川高専の特長や魅力を中学校関係者に積極的に発信している。 ①-1 (b) 国公立高等専門学校合同説明会(東京・大阪)に参加し、他高専と連携した組織的、戦略的な入学者確保の取り組みに努めた。東京会場では個別相談ブースを出展した。大阪会場では個別ブースに加え科学教室を出展し、中学生・保護者に香川高専をアピールした。</p>
<p>①-2 対象を絞った入学者募集説明会(中学3年生・保護者を対象、中学教員を対象)、体験入学・オープンキャンパス(中学1~3年生・保護者・中学教員を対象、小学生~中学生を対象)、本校主催の学校説明会、中学校主催の高校説明会・進路相談会、県内・近隣県への中学校訪問、母校訪問(教員による訪問、学生による訪問)、塾訪問、地域の各種イベント等の機会を活用し、香川高専の特長や魅力を発信する。</p>	<p>①-2 以下のとおり、入学者募集説明会、体験入学・オープンキャンパス等を開催し、入学者獲得に向けた活動を行った。 ・教員による中学校訪問(高松31校・詫間27校) ・オープンキャンパス(体験入学)(中学生・保護者等対象)8月10、11日 詫間キャンパス(参加者中学生向け:503名、一般向け:235名)、8月17、18日 高松キャンパス(参加者687名)。 ・国公立高等専門学校合同説明会(東京)個別相談ブースに出展(大阪)個別相談ブース、展示・体験ブースに出展。 ・入学者募集説明会(中学校教員対象)10月4日 詫間キャンパス(21校)、10月9日 高松キャンパス(34校)、10月21日岡山市(12校)。 ・入学者募集説明会(中学生・保護者等対象)10月5日 詫間キャンパス(参加者214名)、10月12日 高松キャンパス(参加者232名)。 ・地区別学校説明会(中学生・保護者等対象)10月19日 岡山市(参加者20名)、倉敷市(参加者21名)。10月27日 綾川町(参加者24名)、丸亀市(参加者26名)。 ・中学校主催の高校説明会(高松23校・詫間21校) ・学生による母校訪問(高松30校・詫間22校) ・秋季オープンキャンパス(小学生・中学生対象)詫間キャンパス(11月2、3日)及び高松キャンパス(11月2、3日)にて開催。 ・教員による中学校訪問及び中学校主催の高校説明会の機会に、校長及び進路指導担当教員と積極的に情報交換を行い、中学生・保護者、中学校が特に必要としている情報や不安要素を把握し、学校説明会や中学校主催の高校説明会における発信に活かしている。</p>
<p>①-3 小中学校・小中学生を対象とした出前授業や地域イベントにおいて、高専の魅力を伝える広報物や入試イベントのちらしなどを配布し、入学者確保に取り組む。</p>	<p>①-3 出前授業や地域イベントにおいて、学校案内およびオープンキャンパスのチラシなど広報物の配布を行い、幅広い年齢層の方々に高専の魅力を伝えた。</p>
<p>②-1 女子小中学生向け広報資料を作成し、それらを活用した広報活動や、オープンキャンパスの女子中学生・保護者を対象とした相談コーナー設置、研究を伴う課外活動及び各種イベント等への女子学生の積極的参加を支援・促進する等により、女子入学希望者確保に向けた取組を推進する。</p>	<p>②-1 オープンキャンパス(体験入学)、入学者募集説明会、高校説明会等において女子学生向けパンフレット(ガールズノート、高専女子キャリアデザイン)を配布した。 オープンキャンパスにおいて女子中学生・保護者を対象とした相談コーナーを設置し、女子入学希望者確保に向けた取組を実施した。</p>
<p>②-2 優秀な留学生の確保に向けて、広報物「学校要覧」の英語版の充実や「学校案内」における留学生コラムの更新を図る。また、外国人留学生の学びの基盤をサポートするため、定期的な面談を行う。また、短期の英語による高専教育プログラムであるKOSEN Global Campへの参加を促す。</p>	<p>②-2 優秀な留学生の確保に向けて、留学希望者を対象とした機構本部とりまのめ広報誌へ香川高専の特長や魅力を掲載すると共に、広報物「学校要覧」の英語版、「学校案内」にて留学生コラムでの留学生の活動紹介を更新するなど、香川高専を広くアピールした。 定期的に修学サポート「日本語カフェ」で、外国人留学生との面談を行っている。 国際交流室を通じて、KOSEN Global Campなどの各種イベントや海外派遣プログラムについて学生に案内している。</p>
<p>③-1 香川高専の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、アドミッションポリシーに基づいた推薦・学力・帰国生・編入学生の入学者選抜を実施する。 また、令和4年度から導入した出願システムのWebエントリー運用方法について検討する。 さらに、複数校志願受験制度の実績のある先行高専から資料や実施状況などの情報を入手し検討する。</p>	<p>③-1 香川高専の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、アドミッションポリシーに基づいた推薦・学力・帰国生・編入学生の入学者選抜を実施した。 また、Web出願エントリーに関して、推薦、学力、帰国生いずれも写真のデータ登録を必須とした。</p>
<p>③-2 中学校訪問や入学者募集説明会において、障害がある受験生に対する配慮について情報を発信する。</p>	<p>③-2 オープンキャンパス及び入学者募集説明会において、合理的配慮相談ブースという障害がある受験生に対する配慮について相談を設ける場を設け、情報を発信した。</p>
<p>(2)教育課程の編成等 ①-1-1 デジタル人材不足という社会の情勢や情報系への入学希望者増に伴い、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)は令和4年度に認定を受けている。情報教育の更なる向上のため、応用基礎レベル申請に向けて、カリキュラムの検討を実施し、令和8年度に新カリキュラムをスタートすべく準備する。</p>	<p>(2)教育課程の編成等 ①-1-1 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルのR7年度申請に向けて準備を進めている。高専フォーラムの数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)申請書書き方講座に教員がオンライン参加し、情報収集を行った。令和7年度学校単位の申請を予定。</p>
<p>①-1-2 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)申請に向けて、カリキュラム改定の検討を実施する。令和8年度の改定に向けて、今年度実施可能な部分から前倒しで実施していく。</p>	<p>①-1-2 カリキュラムWGにおいて、カリキュラム改定の検討を進めている。WGは高松キャンパスで8回、詫間キャンパスで7回実施されている。教育課程表の原案をR6年末を目途にまとめるよう各科で検討中。</p>
<p>①-2 香川大学との連携教育プログラムの教育内容を高度化するとともに、高専と大学の両キャンパスで学修する学生の支援体制を強化する。</p>	<p>①-2 高専と大学の両キャンパスで学修するプログラム生に奨学金を支給することとし、規定(香川高等専門学校支援基金学生教育研究活動助成事業に関する申し合わせ)を改正した。</p>
<p>②-1 学生が海外で活動する機会を提供する体制の充実のため、以下の取組を実施する。 ・海外派遣・海外留学・海外インターンシップなどの学生交流を推進し様々な情報提供を行う。 ・海外活動した学生に対する単位認定制度の仕組みを検討し学生の海外活動を推進する。 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの情報を収集し、学生に情報提供を行う。</p>	<p>②-1 学生と教職員向けにMS Teamsで「国際交流室(公開)」チームを立ち上げており、本校・他高専・NPOなどの海外活動情報を発信している。今年度分についてはこれまでに57件の情報を提供している。チームへの登録者数は昨年度の200名程度に対して、現時点で310名となっている。 ・海外活動した学生に対する単位認定制度として、「海外英語演習」のシラバス内容を、英語研修の派遣先を限定しないように変更した。また、現在進められているカリキュラム変更において英語研修に限らない、様々な海外研修で単位認定されるよう検討している。 ・グローバルアントレプレナーシップについて、高専機構主催の同プログラムを「国際交流室(公開)」チームで周知した。応募者はいなかった。</p>
<p>②-2 協定校において高度な専門知識やスキルを活用して課題に取り組む研究インターンシップ(香川高専グローバルエンジニア研修プログラム)を企画し学生を派遣する。 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの情報を収集し、学生に情報提供を行う。 ・KOSEN Global Campの情報を収集し、学生に周知して参加を促す。</p>	<p>②-2 協定校にて研究インターンシップに取り組むグローバルエンジニア研修プログラムを企画し、9月に20名の学生を協定校・ラジャマンガラ工科大学(タイ)へ2週間派遣した。また、10月に2名の専攻科生をトゥール大学プロア校(フランス)へ3か月間派遣した。なお、ラジャマンガラ工科大学への派遣については好評であったことから、2月から3月にかけて本年度2回目の派遣として、9名を新たに派遣した。 ・グローバルアントレプレナーシップについて、高専機構主催の同プログラムを「国際交流室(公開)」チームで情報提供した。応募者はいなかった。 ・KOSEN Global Campについて、本校に案内のあったプログラムを「国際交流室(公開)」チームで情報提供した。応募者はいなかった。</p>
<p>③-1 他高専と連携を図って、四国地区高等専門学校ロボットコンテストの運営に携わるとともに、全国高等専門学校ティーブレーニングコンテスト、全国高等専門学校ロボットコンテスト、全国高等専門学校デザインコンペティション、全国高等専門学校プログラミングコンテスト等の全国的なコンテストへの参加を奨励し、参加学生の活動を積極的に支援する。</p>	<p>③-1 9月29日、高松キャンパスが四国地区高等専門学校ロボットコンテストの運営担当校として大会を実施した。両キャンパスで全国的な大会やコンテストへの参加を積極的に支援している。 四国地区ロボットコンテストでは、両キャンパスから各2チームが参加し、準決勝に進出した4チーム全てを香川高専が占め、高松キャンパスが優勝・準優勝を受賞、各キャンパスから1チームずつが全国大会に進出する優秀な成績を収めた。11月に東京両国国技館で行われた全国大会では、詫間キャンパスのチームがロボコン大賞を受賞した。 全国高等専門学校プログラミングコンテストでは、高松キャンパスから自由部門に1チーム、競技部門に1チームが、詫間キャンパスからは自由部門、課題部門、競技部門に各1チームが本選に参加した。10月に奈良市で行われた本選では、自由部門で詫間キャンパスのチームが最優秀賞、文部科学大臣賞を受賞した。 全国高専ティーブレーニングコンテストには高松キャンパスから1チーム、詫間キャンパスから4チームがエントリーを行い、積極的な参加が行われている。詫間キャンパスの1チームが二次書類審査の結果採択まで進み、メンターによる面談審査後不採択まで進んだ。 全国高専デザインコンペティションには構造デザイン部門に低学年の学生が主体で活動し、11月に阿南市で行われた大会に参加し、入賞は逃したが、デザイン構造研究会の活動として活動が活発化している。</p>
<p>③-2 災害ボランティアや地域貢献活動への参加についてパンフレットの配布や特別活動などを利用して周知する。また、香川高等専門学校学生表彰規定に則り、顕著なボランティア活動を行った学生及び学生団体の顕彰を積極的に行う。</p>	<p>③-2 地域ボランティアの案内について、学内の連絡システムや校内掲示板を活用して学生への周知を行った。 高松キャンパスでは、サイエンスクラブが高松未来こども館においてサイエンス教室を行ったり、機械システム研究部がロボットの実演やミニロボ操縦体験を行ったりした。 また、詫間キャンパスでは、学生・教職員で組織する地域連携行事参加団体を中心に、三豊市との連携事業として、みとよ年少少女発明クラブの活動支援や地域の理科学離れ対策や高齢化対策の支援を行っている。(計33件の協力)</p>
<p>③-3 外部の各種奨学金制度や留学情報を収集し、学生が積極的に利用できるようにTeams上に構築した国際交流に関する「情報公開用チャンネル」を活用し、学生の海外留学、国際会議等の参加機会拡充を図る。 ・高専生の海外活動支援事業について学内で補助金の支給条件などを整備して学生に周知する。 ・KOSEN Global Campの情報を収集し、学生に周知して参加を促す。</p>	<p>③-3 学生と教職員向けにMS Teamsで「国際交流室(公開)」チームを立ち上げており、本校・他高専・NPOなどの海外活動情報を発信している。今年度分についてはこれまでに57件の情報を提供している。チームへの登録者数は昨年度の200名程度に対して、現時点で310名となっている。 ・海外活動支援事業について、学内で補助金の支給条件を、短期派遣において6万円、長期派遣において12万円にするよう整備して学生に周知した。 ・KOSEN Global Campについて、本校に案内のあったプログラムを「国際交流室(公開)」チームで情報提供した。応募者はいなかった。</p>

令和6年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和6年度 実績報告
(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員については、原則として博士の学位を有する者を応募資格として教員公募を実施する。	(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員については、博士の学位を持つ者を条件に教員公募を実施した。
②-1 クロスアポイントメント制度について、新たな導入の可能性を検討する。	②-1 クロスアポイントメント制度について、新たな導入の可能性を検討した。
②-2 民間で活躍する人材の活用について検討する。	②-2 民間で活躍する人材の活用について、高専機構本部及びビズリーチ社と連携し検討のうえ、令和7年4月から副業参謀を3名雇用する。
③ 同居支援プログラムや各種女性研究者支援プログラムなどを積極的に周知する。また、ライフイベントにかかる支援制度を利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行う。	③ 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、高専間の人事交流の一環として、同居支援プログラムを積極的に周知した。また、ライフイベントにかかる本校の支援制度、手続情報を学内グループウェア内に集約・共有し、制度が利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行った。
④ 外国人教員(常勤、非常勤)の積極的な採用に努める。	④ 外国人教員(常勤、非常勤)の積極的な採用を検討し、令和7年度外国人教員(常勤1名、非常勤2名)を採用した。
⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との教員人事交流制度や国立高等専門学校間の教員人事交流の候補者を募る。	⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との教員人事交流制度や国立高等専門学校間の教員人事交流の候補者を募った。
⑥ 機構本部が実施する研修に教員を派遣し、本校においても教員の能力向上を目的とした研修を実施する。また、中国・四国工学教育協会高専部会の教員研究会及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)等への積極的な教職員の受講を奨励する。	⑥ 機構本部が実施する研修に教員を派遣し、本校においても教員の能力向上を目的とした研修を実施した。 (機構本部主催) 新任教員研修会:3名 中堅教員研修会:2名 (本校主催) 新任教員研修:5名 FD・SD研修会:134名(教員62名、職員66名、短時間再雇用教職員・非常勤教職員6名) また、中国・四国工学教育協会高専部会の教員研究会及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)等へ積極的に教職員が受講するよう周知した。
⑦ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められる教員や教員グループを機構の教員顕彰に推薦する。	⑦ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められる教員や教員グループを機構の教員顕彰に推薦した。
(4)教育の質の向上及び改善 ① 本校以外の教育機関における授業の履修(他高専、香川大学)を推進するため、学生に周知する。また、モデルコアカリキュラムに基づく教育課程の編成について点検後の検証を実施するとともに、令和8年度にスタートの新カリキュラムについても、モデルコアカリキュラムに準拠するように検討をすすめる。	(4)教育の質の向上及び改善 ① 本校以外の教育機関(他高専、香川大学)における授業の履修について学生に周知した。この結果、香川大学2名、他高専1名、四国地区高専との連携・交流に伴う「特別講義」(弓削商船主催)1名の履修があった。また、カリキュラム変更WGにおいて、現行カリキュラムとモデルコアカリキュラムについて点検・検証し、令和8年度の新カリキュラム移行を目標に検討を続けている。
② 教育の質保証及び向上に努めるため、高等専門学校機関別認証評価の評価結果の改善を要する点について組織的に対応を行い改善を促進する。また、令和8年度国立高専教育国際標準(KIS)受審に向けて全学的に進めていく。	② 機関別認証評価の評価結果の改善を要する点について企画評価室会議から各委員会へ改善検討及び実施を依頼し、1月末に現在の改善状況を取りまとめて高専機構へ報告を行った。また、KIS受審についても企画評価室会議にて今後のタイムスケジュールおよび担当を決定し、資料作成依頼を行った。
③-1 これまでに実施してきた、1～3年生対象の地域課題解決型のPBL科目「ブレ研究・研究基礎」について、課題等を検討し、より一層の充実を図る。また、地域の自治体等と連携し、小中学生を対象としたSTEAM教育の支援を引き続き実施していく。	③-1 高松キャンパスのブレ研究については、学生テーマ5件、教員テーマ8件のテーマ数で実施しており、学生祭において中間発表、1月に最終発表を行う予定。詫間キャンパスの研究基礎は、2テーマで実施しており12月19日に最終発表会を行う予定。また、高松市こども未来館において、「香川高専おもしろ体験教室」をこれまでに4回実施した。さらに、三豊市少年少女発明クラブ「ロボット教室」など、20件のイベントを実施した。
③-2 香川高専の支援組織である香川高専産業技術振興会、地域企業等の協力を得て、企業と連携した教育コンテンツの開発を推進する。	③-2 機械工学演習Ⅱにおいて、「準天頂衛星みちびきを利活用したビジネスプランニング」を実施した。本演習では、ビジネスに関する知識を学び、準天頂衛星みちびきを利活用して身近な課題を解決するビジネスプランニングに取り組んだ。
④ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学と連携教育、共同研究の分野で連携を推進する。また、両技術科学大学との教員人事交流制度について積極的に教員に周知し、人事交流を図る。	④ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を強化し、教育の質の向上につなげるとともに、人事交流についても学科長を通じて教員に周知し、有機的な連携を推進した。 MILLA高専連携教育プログラム 申請数:3件 高専-長岡技科大共同研究助成 申請数:3件

<p style="text-align: center;">令和6年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)</p>	<p style="text-align: center;">令和6年度 実績報告</p>
<p>(5) 学生支援・生活支援等 ① カウンセラー、ソーシャルワーカー、精神科医の専門職を配置し、学生相談体制を充実させ、以下の活動を実施する。 (a) 個々の案件に対する情報共有は、関係教員によるチームで対応する。担任や相談室員との面談やカウンセリングが必要な学生に関しては、本校非常勤カウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携して適切な支援を実施する。 (b) 合理的配慮の申請のあった学生に関しては、障がい学生支援委員会を開催し、支援を開始するとともに、進級時における支援継続の有無に関しても保護者と定期的に連絡をとりながら対応し、支援内容を決定する。支援についての合意書を学校、学生、保護者等の署名のうえで交付する。また、修学サポート室とも連携をはかりながら教育支援体制を強化する。 (c) 合理的配慮・支援のための入学前面談を実施する。教員、専門職員等の複数人面談を行うことで、より適切な支援を行う。 (d) 全学生を対象にした自殺防止アンケートについては、機構本部の「学校適応感尺度調査(高専生活に関するアンケート)」を実施するだけでなく、本校独自の「こころと体の健康調査」も実施する。 (e) 学生対象に「いじめ防止」、「自殺防止」、「メンタルヘルス」、「ソーシャルスキルトレーニング」、「依存症」等に関する講演や研修を実施する。 (f) 教職員対象に「発達障がい」、「多様な性(LGBTQ等)」等に関する講習会や研修を実施し学生支援の向上に繋げる。 (g) 本校作成の面談基本シートをもとにした、担任による全学生面談を実施する。 (h) 両キャンパスの学生相談室交流を実施し、有益な情報交換を行い、学生支援の質を充実させる。</p>	<p>(5) 学生支援・生活支援等 ① 【高松】 (a) ・学生相談室に相談が入った場合は、担任・関係教員・学科長・SC・SSWと情報共有しながら、チームによるサポート体制を強化している。 ・長期休み前の支援として、学生や保護者に向けて学外の相談窓口を周知した。 ・学生の病院受診、法務少年支援センター訪問のSSW同行を行った。学生の外部支援機関定例会議に、SSWがZoom参加している。 ・SSWが寮での相談日を設定し、寮行事(スポーツ大会等)に参加した。寮生向けアンケートについて事前・事後にSSWと相談しながら実施している。 ・今年度も昨年度と同様、月1回2時間の専門医を、学生・保護者・教職員・専門職が対象で配置した。 (b) 合理的配慮の要望のあった学生に対して障がい学生支援委員会を開催し、支援を行った(3名新規、5名継続・[新入生3人、1年生(原級生)1人、2年生1名、3年生2人、4年生1人])。 (c) 合理的配慮の入学前面談を実施した(新入生4名)。オープンキャンパス時に、合理的配慮の相談ブースを設置(8/17、18。10/12実施。学祭11/2、3でも実施)し、サイボウズで情報共有を行った。 (d) 全学生を対象にした自殺予防アンケート「高専生活に関するアンケート」を年2回実施した(4月・10月実施)。学生相談室の面談基準を設定し、面談対象者には「心とからだの健康調査」にも回答してもらうこと、必要に応じてSCに繋げることで自殺防止に努めた。 (e) 1、2年生向けの自殺予防講演会を開催。本校SCが1年生対象で7月10日、本校SSWが2年生対象で11月20日に実施した。 (f) 全教員参加を呼び掛けた事例検討会を6/27に実施した。ゲーム依存症の第一人者である三光病院の海野順病院院長の学生教職員向けの特別講演会を7/18に実施した。また、時折屈高専機構本部学生支援理事からの通知文を全教職員に転送し、教職員の意識向上に努めた。 (g) 年度始めに、本校作成の面談基本シートと相談室アンケート結果を活用した担任による全学生面談を実施した。 (h) 詫間の項目参照。 【詫間】 (a) ・個々の案件に対して(学生・教職員の相談・連絡やアンケート結果等から)、関係教職員・SC・SSWが情報共有(グループウェア・コミュニケーションツールも利用)しながら連携、チームとして対応、支援を行っている。 ・学生・保護者・教職員・SC・SSWに向けた精神科医の相談を月1回2時間実施している。 ・休学者や不登校学生の希望者に対して、SSWによる家庭訪問を行っている。 ・子育て支援課や児童相談所と連携しながら、見守り対象学生や心配な学生の支援、定期的な情報共有を行なっている(面談・電話)。 ・発達特性があり通院している学生、自傷経験があり通院している学生等に対して、本人・保護者の許可を得て、病院と学校が情報共有し、支援を行っている。 ・発達障害者支援センターに電話相談したり、学生・保護者とSSW・担任・学生相談室長と一緒に訪問相談して、学習環境や生活環境の改善に繋がった。 ・通信制高校と情報交換したり(電話・訪問)、転校を希望する学生・保護者と担任・学生相談室長他と一緒に説明会や学校見学に参加し、転校まで支援を行った。 ・毎月(3月、9月除く)「学生相談室だより」を作成し、学生・保護者・キャンパス教職員へメール配信を行っている。 ・長期休業期間中(夏季休業、冬季休業、学年末休業)の家庭での見守りを保護者に依頼する文書を配布し(休業開始前後は電子媒体配布、成績通知時は紙媒体配布)、相談窓口を案内した。 ・学習相談の増加に伴い、教務関係者と連携、修学サポート室による支援を進めている。 ・寮の体調不良学生や不登校学生等に関して、寮の関係教職員と情報共有している。また、事件や事故、アンケート等で、見守りが必要な学生がいた場合、SC・SSW・看護師等の面談を実施し、寮関係教職員や保護者と連携して、見守りを実施している。 (b) 今年度、合理的配慮を希望した1年生1名に対して、障がい学生支援委員会を開催し、合意書を作成・署名、合理的配慮に基づいた支援を行っている。昨年度から継続の3年生2名、4年生2名は、関係教職員やSC・SSWと定期的に面談を行い、支援内容を必要に応じて変更し、支援を継続している。合理的配慮までは希望しないものの生活支援や学習支援を希望している、1年生4名、2年生2名(1名は原級生)は、修学サポート対象学生として、関係教職員やSC・SSWと定期的に面談を行い、支援を行っている。 (c) 合理的配慮・支援のための入学前面談を、学生相談室(室長・副室長)・SC・看護師が実施した(新入生4名)。また、看護師が保健室へ提出された書類から気になる学生を抽出し、本人・保護者・中学校へ電話聞き取りを行った(1名修学サポートに繋がった)。 (d) 全学生(本科生・専攻科生)を対象に「学校適応感尺度調査」(5月実施済、10月実施済)、及び「こころと体の健康調査」(7月実施済、1月実施済)を各2回実施し、気になる学生を抽出、SCやSSWとの面談に繋げている。 (e) ・自殺予防講演会を、11月11日(4年生対象) 演題「ネガティブな感情を生きる力に変える」(本校SC光岡浩昌先生)、1月27日(2年生対象) 演題「こころの健康について考えよう」(香川県立丸亀病院 エキスパートナース 精神科認定看護師 林真琴先生)に実施した。 ・性教育に関する講演会を、12月16日(3年生対象) 演題「思春期に学んでおきたい性について」(みゆき助産院 竹内美由紀先生)、依存症に関する講演会を、1月20日(1年生対象) 演題「若年化する依存症」(香川県精神保健福祉センター 主任 中山昌代先生)に実施した。 ・1～3年生対象に、SCによるメンタルヘルスセミナーを、学年毎にテーマを変えて、クラス単位で実施した(4月～7月)。また、SSWによる講演会も、1～3年生対象に、学年単位で実施した(5月～7月)。 ・全学生(本科生・専攻科生)を対象に、SSWがいじめ防止講話(演題「あなたは本当にいじめについて知っていますか」)を6月20日に実施した。 ・1年生で発生したいじめ関連事案(11月)に対応するため、1年生3クラスそれぞれで、SSWがいじめ防止ミーティングを実施した(11月11日～12月9日)。 ・SCによる「LGBTQ+についてのお話会(7月19日)」、保健室主催のイベント(10月17日)を、学生の自由参加で実施し、学生と学生相談室や保健室の友好関係を築いた。 (f) 年度初めに、教職員向けSSWに関する説明会を4月25日に実施した。学生相談に関する研修を、SSWが9月26日に実施した。今年度は、講演会ではなく、不登校を事例に、グループワークを行った。外部講師による、性教育に関する講演会を11月27日に実施した(演題「最近の性教育と思春期に学んでおきたい性について」(みゆき助産院 竹内美由紀先生))。 ・文部科学省や高専機構本部から届く通知文を全教職員に転送したり、その内容をキャンパス教員会議で伝え、教職員の情報共有と意識向上を行った。 (g) 面談基本シートを利用し、4月に全学生を対象とした担任による面談を開始した。学生全局面談終了した担任とSCによる面談を実施し、情報共有と、担任-SC間の連携を密にした。 (h) 昨年度同様、詫間と高松の相談室長スレッドを作成しサイボウズ上で情報共有交換を行った。8月20日、高松キャンパスにおいて、学生相談室長同士の対面による有益な情報交換を行った。</p>
<p>② 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、Webページや一斉メール、香川高専だより、電子掲示、教室掲示等を通して学生及び保護者に迅速に周知する。</p>	<p>② 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報を、HPや一斉メール送信、香川高専だより、電子掲示、教室掲示、定期周知文(「学生への連絡事項」)を通して学生に迅速に周知している。その結果、39団体・組織等の奨学金情報を学生に提供し、述べ203名が奨学金受給者となった。</p>
<p>③ ・産業界及び自治体、同窓会からの支援により、低学年からのキャリア教育を実施する。 ・キャリアサポートセンターが提供するインターンシップ・就職・進学情報提供や相談に、Microsoft 365やWebページを活用する。 ・学生の就職支援をサイボウズなどを利用して学科長または担任と連携して実施する。 ・業界紹介をはじめとした企業説明会を実施する。 ・4年生のインターンシップ報告書を、低学年に情報提供する。 ・5年生の就職・進学活動報告書を、4年生に情報提供する。 ・キャリア支援を含めた満足度アンケートを継続実施する。</p>	<p>③ 10月、11月に2年生、3年生に対して外部講師を招き、技術者になるために準備しておくべきことを話してもらった。Microsoft365を活用し、就職や進学情報を学生に提供した。2月に仕事研究セミナーを開催し、学生に企業担当者と話ができるようにした。9月、4年生にインターンシップ報告書を書かせ、情報を公開した。11月、5年生に就職進学活動報告書を書かせ情報を公開した。年度末に満足度アンケート実施した。</p>

令和6年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和6年度 実績報告
<p>1. 2 社会連携に関する事項</p> <p>① 香川高専webページの教員の技術シーズや研究成果などの情報と活動の詳細を検討し、情報発信の強化を図る。 Researchmapの更新を実施し、連動している「国立高専研究情報ポータル」等のwebページの情報を最新にして発信する。 地域自治体等と連携した理科教育や社会人教育のための講座を積極的に実施する。</p>	<p>1. 2 社会連携に関する事項</p> <p>①Researchmapを更新し、連動している「国立高専研究情報ポータル」等のwebページの情報を最新にして発信した。香川県の外部団体であるかがわ産業支援財団と連携して地域の社会人向け技術講座を4回実施した。高松市と連携した市の保有施設である高松市こども未来館たかまつミライエでの小中学生向けイベント企画では、すでに今年度18回実施した。この連携事業に関しては平成27年度からプレ実施、平成28年度から受託事業として実施しており、イベント回数は令和4年度に100回を超え、今後も継続的な協力への依頼を受けている。学生祭と同時開催のイベント「サイエンスフェスタ」にてプレ研究の中間発表を行い、地域に向けての学生の研究周知を推進する。 三豊市内の中学校のプログラミング教育は実施されている。 小学校向けのリモコンロボット教室(プログラミング的思考)は三豊市青少年少女発明クラブで試行的に実施(10月12日(土))十分教育効果が高いことを確認した。</p>
<p>②(a) 共同研究・受託研究の受入れを促進し、その成果情報の発信や知的財産化に努める。 ②(b) 地域産業界や自治体、(一社)みとよAI推進機構・MAIZM、東京大学松尾研究室と連携し、AI社会実装教育研究本部及び各キャンパスに置かれたAI社会実装教育研究センターにおいてAIの基礎・応用教育を行う。さらに社会実装を目指したビジネス教育、アントレプレナーシップ教育を実施する。 ②(c) 国立高等専門学校間の研究ネットワークを活用し、以下の活動を行う。 ・香川高専を含む高専機構内12高専で立ち上げた「高専AIプロジェクト」内で各高専間の情報交換等を積極的に行いそれぞれの高専が持っている地域課題(地域企業からの共同研究、自治体からの依頼等)を高専間で連携し、(一社)みとよAI推進機構・MAIZM、東京大学松尾研究室の協力を得て解決を目指す。 ・DCON2024本選などの出場を通じて、研究成果を社会に発信する。 ・KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築(KOSEN-REIM)に参画し、社会基盤メンテナンス教育センター(iMec)において、地域における社会基盤のメンテナンス人材育成事業、インフラに関する産官学地域連携である「香川社会基盤メンテナンス推進協議会」における情報発信および地域課題解決を行う。</p>	<p>②(a) 従来通り行っている。 ②(b) AI①・・・実施済、AI②・・・実施済、AI③(ビジネス教育)・・・実施済、AI④(アントレプレナー教育)・・・実施済 ②(c)・三豊市・観音寺市を中心として地域企業の課題を収集する取り組みを行うため銀行にお願いし情報収集できるように準備を行っている。 ・DCON2024において、全国2位を受賞した(村上) また、DCON2025わかっている応募件数・・・詫間4件(三崎2件、岩本2件) ・S-Booster2024 でJAXA賞、ソニーグループ賞を受賞した(村上) 第2回高専起業家サミット・・・高松1件、詫間2件(三崎) ・社会基盤メンテナンス教育センターからの依頼を受け、11/20(水)15:00～ 四国地方整備局 技術開発懇談会に、参加予定した。 ・社会基盤メンテナンス教育センターでは、地域のニーズを把握するために、香川社会基盤メンテナンス推進協議会を運営している。8月に幹事会を開き方針を確認し、9月に年1回の総会を開催した。その際、部会の中間報告も行われ、技術資料を提供した。 ・社会基盤メンテナンス教育センターの人材育成の取組みに関して、香川高専を含むREIM産学連携コンソーシアムとして、2025年1月に第8回インフラメンテナンス大賞 国土交通大臣賞を受賞した。</p>
<p>③-1 ステークホルダーに応じて、本校の活動や成果を積極的に情報発信し、報道機関等に対して積極的に情報提供を行う。また、WebページやSNS等を通じた情報発信を強化する。</p>	<p>③-1 ・香川高専の広報に関する基本方針に基づき、本校の活動や成果を積極的に社会に発信し、各ステークホルダーに応じて、戦略的な広報活動を計画、実施している。 ・日本経済新聞社、四国新聞社等の取材依頼に応じ、83件の本校に関する報道がなされた。また、20件(昨年度7件)の記者クラブへの投げ込みを行っている。 ・ホームページの情報を随時更新し、学生活動・教育研究活動の情報発信を行っている。 ・SNSを利用した情報発信として、ソーシャルメディア運用ポリシーに基づき、香川高専公式のYouTubeとInstagram、Facebook、LINEなど各ソーシャルメディアの特徴を活かすつつ積極的に情報発信をしている。 ・オープンキャンパスや入学者募集説明会の情報をHPトップの上部に設置し、入試広報を効果的にしている。</p>
<p>③-2 Webページや報道機関への積極的な情報提供等により、本校の強み・特色・地域連携の取組や学生活動等の様々な情報を広く発信する。また、報道された内容等については機構に随時報告する。</p>	<p>③-2 ・HPトップに77件(昨年度74件)の「お知らせ」と289件(昨年度249件)の「トピックス」を掲載し、学生活動、各種イベント、地域連携、国際交流の取組等の情報を広く発信している。 ・広報誌として、HP掲載の「学校要覧」、「学校案内」、「教育研究報告」、「図書館だより」、「高専だより」の情報を更新、また、英語版のHPを最新情報に更新している。 ・ことでんの電車広告を行い、香川高専の情報を発信している。 ・香川高専の法被と幟を、広報活動に利用している。 ・学生の活躍を、オープンラウンジで映写、また、「総務・広報室だより」としてさくら連絡網で配信し、在校生・保護者・教職員・来校者へ情報発信を行っている。 ・香川高専の活動に関する記事等が新聞等メディアに掲載された際は、機構に随時報告している。 ・大学・地域共創プラットフォーム香川のwebサイト「香川キャンパスガイド」では、香川高専の特徴や取組み、在校生や卒業生の声など広く発信している。</p>
<p>④(a) 地域の自治体と連携し、小中学生を対象とした公開講座、出前授業、地域交流イベント、理工系人材の早期発掘事業を実施する。 また地域の教育委員会と連携し中学校のプログラミング教育を高専が持っている教材とノウハウを使用し計画的に実施する。 ④(b) 小中学生を対象としたSTEAM教育に関連した人材育成事業を実施する。 ④(c) AIや社会基盤に関連した地域の社会人を対象としたリスキル、リカレントに関する事業を実施する。</p>	<p>④(a)新型コロナの問題が無くなり新型コロナ前の状況に戻りつつある。 三豊市内の中学校のプログラミング教育は実施されている。 小学校向けのリモコンロボット教室(プログラミング的思考)は三豊市青少年少女発明クラブで試行的に実施(10月12日(土))十分教育効果が高いことを確認した。 高松市と連携した市の保有施設である高松市こども未来館たかまつミライエでの小中学生向けイベント企画では、すでに今年度18回実施した。この連携事業に関しては平成27年度からプレ実施、平成28年度から受託事業として実施しており、イベント回数は令和4年度に100回を超え、今後も継続的な協力への依頼を受けている。学生祭と同時開催のイベント「サイエンスフェスタ」にてプレ研究の中間発表を行い、地域に向けての学生の研究周知を推進する。 ④(b) 10月20日(日)に高松市こども未来館ミライエ1F多目的室にて、「城壁コンストラクション」とテーマに実施した。市内のパフォーマンスカンパニー・リトルウイングと協働して学生も参加して演劇を実施した。市内の無形民俗文化財に登録された石切歌を招待し、STEAM教育を推進した。観客50人、土木ものづくり60人であった。令和6年度「小中高専連携による個別最適なダイバーシティ型STEAM教育」高専間連携活動について、阿南高専に連携する形で応募し、年度末までにレーザースキャナによる構造物計測とそのVR可視化の方策について実施する見込みである。 ④(c) 社会基盤メンテナンス教育センターでは、橋梁点検基礎編を年4回(5、10、11、3月)、応用編を1回(12月)開催した。基礎編受講者は38名、応用編受講者は7名。受講者は、香川県内だけでなく四国4県と岡山県からの参加が増えている。</p>
<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 協定校を訪問する機会を活用し、本校の学校要覧(英語版)を配布して「KOSEN」を説明する。</p> <p>①-2 機構本部の要請に応じて、モンゴルにおける「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。</p> <p>①-3 機構本部の要請に応じて、タイにおける「KOSEN」の導入支援として、一昨年度までタイ高専に常駐した専門学科教員の経験を中心として教員研修や学校運営向上への助言等に協力する。</p> <p>①-4 機構本部の要請に応じて、ベトナムにおける「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。</p> <p>①-5 機構本部の要請に応じて、エジプトにおける「KOSEN」の導入支援として、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。</p> <p>①-6 協定校を訪問する機会を活用し、本校の学校要覧(英語版)を配布して「KOSEN」を説明する。</p> <p>①-7 高専質保証を担保すべく、令和8年度の国立高専教育国際標準(KIS)受審に向けて準備する。</p> <p>② 機構本部の要請に応じて「KOSEN」導入支援に係る取組みに協力する。</p>	<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 学生を海外研修として協定校に派遣した際、引率した教員が本校の学校要覧(英語版)を配布した。</p> <p>①-3 ・タイ高専からの3年生編入生2名を受入れた。 ・タイ高専専攻科生1名を10/1に研究生として受け入れた。</p> <p>①-6 学生を海外研修として協定校に派遣した際、引率した教員が本校の学校要覧(英語版)を配布した。</p> <p>①-7 企画評価室会議において、今後のタイムスケジュールを作成し、各担当に資料作成依頼を行った。</p>
<p>③-1 学生が海外で活動する機会を提供する体制の充実のため、以下の取組を実施する。 ・海外派遣・海外留学・海外インターンシップなどの学生交流を推進し様々な情報提供を行う。 ・海外活動した学生に対する単位認定制度の仕組みを検討し学生の海外活動を推進する。 ・グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムの情報を収集し、学生に情報提供を行う。</p>	<p>③-1 ・学生と教職員向けにMS Teamsで「国際交流室(公開)」チームを立ち上げており、本校・他高専・NPOなどの海外活動情報を発信している。今年度分についてはこれまでに57件の情報を提供している。チームへの登録者数は昨年度の200名程度に達し、現時点で310名となっている。 ・海外活動した学生に対する単位認定制度として、「海外英語演習」のシラバス内容を、英語研修の派遣先を限定しないように変更した。また、現在進められているカリキュラム変更において英語研修に限らない、様々な海外研修で単位認定されるよう検討している。 ・グローバルアントレプレナーシップについて、高専機構主催の同プログラムを「国際交流室(公開)」チームで周知した。応募者はいなかった。</p>
<p>③-2 ・協定校において高度な専門知識やスキルを活用して課題に取り組む研究インターンシップ(香川高専グローバルエンジニア研修プログラム)を企画し学生を派遣する。 ・KOSEN Global Campの情報を収集し、学生に周知して参加を促す。</p>	<p>③-2 ・協定校にて研究インターンシップに取り組むグローバルエンジニア研修プログラムを企画し、9月に20名の学生をラジャマングラ工科大学(タイ)へ2週間派遣した。また、10月に2名の専攻科生をトゥール大学ブローア校(フランス)へ3か月間派遣した。なお、ラジャマングラ工科大学への派遣については好評であったことから、2月から3月にかけて本年度2回目の派遣として、9名を新たに派遣した。 ・グローバルアントレプレナーシップについて、高専機構主催の同プログラムを「国際交流室(公開)」チームで情報提供した。応募者はいなかった。 ・KOSEN Global Campについて、本校に案内のあったプログラムを「国際交流室(公開)」チームで情報提供した。応募者はいなかった。</p>

令和6年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和6年度 実績報告
<p>③-3</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部の各種奨学金制度や留学情報を収集し、学生が積極的に利用できるようにTeams上に構築した国際交流に関する「情報公開用チャネル」を活用し、学生の海外留学、国際会議等の参加機会拡充を図る。 高専生の海外活動支援事業について学内で補助金の支給条件などを整備して学生に周知する。 KOSEN Global Campの情報を収集し、学生に周知して参加を促す。 	<p>③-3</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生と教職員向けにMS Teamsで「国際交流室(公開)」チームを立ち上げており、本校・他高専・NPOなどの海外活動情報を発信している。今年度分についてはこれまでに57件の情報を提供している。チームへの登録者数は昨年度の200名程度に対して、現時点で310名となっている。 海外活動支援事業について、学内で補助金の支給条件を、短期派遣において6万円、長期派遣において12万円にするよう整備して学生に周知した。 KOSEN Global Campについて、本校に案内のあったプログラムを「国際交流室(公開)」チームで情報提供した。応募者はいなかった。
<p>④ 優秀な留学生の確保に向けて、広報物「学校要覧」の英語版の充実や「学校案内」における留学生コラムの更新を図る。また、外国人留学生の学びの基盤をサポートするため、定期的な面談を行う。また、短期の英語による高専教育プログラムであるKOSEN Global Campへの参加を促す。</p>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> オンキャンパス国際化を推進するため、受け入れる短期留学生の数を増やす議論を協定校と行い、春季に9名を2～3か月受け入れた。また、秋季に13名を2か月間受け入れた。 KOSEN-KMITLから、3年編入生2名を、専攻科から研究生1名をそれぞれ受け入れた。また、サポート体制としてチュータ制度を活用する他に、Teamsなどで情報を共有している。 学校要覧(英語版)については、内容が古くならないよう毎年更新をしている。 詫間キャンパスでは、留学生コーディネータ、かつ、本校で国語授業を担当している非常勤講師が毎週放課後に「日本語カフェ」と称し、在籍する留学生と面談するとともに、留学生と日本人のコミュニケーションの場を提供している。
<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度作成した「海外安全ガイドライン」に基づき指導を行い、また随時見直しを行う。 外国人留学生の成績や生活面での状況把握に務め、必要に応じて適切なサポートを行う。 	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外研修においては「海外安全ガイドライン」に基づいて、事前説明会や研修中の引率を行った。 留学生の成績や生活面での状況把握に務め、在籍管理なども含めて適切にサポートしている。
<p>2. 1 一般管理費等の効率化 一般管理費縮減のため、学生・教職員への節電要請、冷暖房の適性温度による使用、既存物品の再利用、消耗品の適正使用等、コスト削減を引き続き実施する。</p> <p>調達においては、競争性、透明性の高い一般競争契約を実施し、経費削減に努める。</p>	<p>2. 1 一般管理費等の効率化 香川高専節電アクションプラン(2024年8月6日策定)に基づき学生・教職員への節電要請、冷暖房の適性温度による使用をしている。各部署で不要となった既存物品及び消耗品について、学内で周知を行い再利用を促している。また、一般競争契約においては、公告期間の十分な確保等を行い、複数社による応札、応募業者の増加に努め、競争性、透明性の確保と、経費削減に努めている。</p>
<p>2. 2 給与水準の適正化 関係規則等に基づき、適正に給与決定を行う。</p>	<p>2. 2 給与水準の適正化 関係規則等に基づき、適正に給与決定を行った。</p>
<p>2. 3 契約の適正化 業務運営の効率化及び国民の信頼の確保の観点から、随意契約の適正化(透明性の確保、公正な競争の促進)を推進し、契約は原則として一般競争入札等により行う。</p> <p>さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づき、入札要件の緩和や広告期間のより十分な確保等により、複数社による応札、応募業者の増加に努める。</p>	<p>2. 3 契約の適正化 入札及び契約の適正な実施については、入札及び契約に係る情報をホームページに公表している。</p> <p>また、調達等合理化計画に基づき、入札参加要件の緩和として、参加業者等級を拡大し、また、原則として12日間以上の公告期間の確保や納品等期間のより十分な確保等を行い、機器の性能に係る比較表等を作成することによって、複数業者による応札、応募業者の増加に努めている。</p>
<p>2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化 学生等に対するサービスの提供や教職員の負担軽減及び業務効率化のため、デジタル・トランスフォーメーションを活用した各学校の教育における業務の効率化及び教職員の業務効率化等を推進する。その際、「情報システムの整備及び管理の基本的な方針」(令和3年12月24日デジタル大臣決定)の通り、情報システムの適切な整備及び管理を行う。</p>	<p>2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化 情報基盤センター及び情報セキュリティ委員会のメンバーで検討し、情報システムの適切な整備及び管理を行った。電子メールのなりすまし防止策のため、システムの設定を行ったり、情報セキュリティに関する宣誓書(教職員)の提出や研修動画の視聴等はMicrosoft365のアプリ機能を利用することで業務負担軽減、効率化を図ることができた。その他、学生等に対するサービスの提供や教職員の負担軽減及び業務効率化のために、連絡網、電子出席簿、寮外泊・点呼・欠食システム、高専統一ネットワーク、教育用電子計算機システム、会計システム、旅費システム、グループウェア、教務事務システム、Microsoft365、LMSを運用している。なお、情報セキュリティ委員会管理下で情報セキュリティの確保に努めている。</p>
<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 校長のリーダーシップのもと予算配分方針を検討し、企画運営会議で審議し、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。</p> <p>業務達成基準による収益化を原則とし、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。</p>	<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 機構本部から示達された当初予算について、予算計画及び予算配分方針に基づき予算編成を行い、企画運営会議での審議を経て、教員に周知を行った。併せて、科研費をはじめとする競争的資金や外部資金の獲得、経費削減、予算執行・管理の計画的執行について、依頼した。</p> <p>予算管理簿及び予算差引簿で予算と実績を管理している。また、予算管理簿に基づき業務達成基準による収益化を原則としている。</p>
<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・教職員による企業見学会、イブニングセミナー、シーズ発表会等の開催により、香川高等専門学校産業技術振興会会員企業等との交流を深めることで、受託研究・共同研究等を推進し、外部資金の獲得を図る。</p> <p>・科学研究費補助金や各種財団研究支援への応募を推奨し、研究資金の獲得に努める。</p> <p>・一般社団法人みよAI社会推進機構:MAIZM、地域の銀行、起業OB、地域のコーディネーターと連携し地域ニーズの収集システムを構築し、ミーティングを実施、共同研究を推進する。</p> <p>・同窓会等と連携して卒業生が就職した企業等との交流を強化することで、香川高専支援基金等への寄付獲得に努める。</p>	<p>3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 ・8/21に教職員向け企業見学会(テーブルマーク(株)中央工場及び(株)デンロコーポレーション丸亀東工場)を実施した。10/24と1/24に香川高等専門学校産業技術振興会と連携し、交流会を2回実施した。9/6にシーズ発表会を実施し、産業技術振興会会員企業に対し9件の研究発表を行った。共同研究等推進支援事業について学内に広く公募し、①萌芽的研究助成に7件、②共同研究推進助成に2件の申請があり、助成を行うことで会員企業等との共同研究の促進をはかった。</p> <p>・科学研究費補助金は令和6年度新規採択課題が8件であった。学内公募要領説明会やワーキンググループによる査読を実施し、令和6年度科学研究費助成事業への申請率は69%であった。各種財団の研究助成情報については、グループウェア掲示板に掲示し、教員へ周知している。</p> <p>・MAIZM、中国銀行・香川銀行、三豊AI開発・D-yorozuその他と連携を開始した。個別には連絡を取り連携を推進している。</p> <p>・学生祭と同日にホームカミングディを開催し、学生と卒業生との交流をはかるとともに、パンフレット配布にて香川高専支援基金のPRを行った。</p>
<p>4. 短期借入金の限度額 4. 1 短期借入金の限度額 該当無し</p>	
<p>4. 2 想定される理由 該当無し</p>	
<p>5. 不要財産の処分に関する計画 該当無し</p>	
<p>6. 剰余金の使途 該当無し</p>	
<p>7. 1 施設及び設備に関する計画 ① 環境・施設マネジメント委員会を中心として施設マネジメント(キャンパスマスタープラン・施設の有効活用における利用状況調査・スペース再配分・インフラ長寿命化計画等)を推進する。また、寄宿舎などの学生支援施設の実態調査とニーズ調査を踏まえた整備計画に基づき、必要に応じて整備を推進する。</p> <p>既に完了している構造体及び非構造部材(屋内運動場の照明器具等)の耐震化について、耐震性能の保全に努める。</p> <p>女子学生の修学環境改善、女子寮の居住環境改善、女性教職員の就業環境改善について、必要に応じて整備を推進する。</p>	<p>7. 1 施設及び設備に関する計画 ①環境・施設マネジメント委員会及び同キャンパス部会を開催し、施設整備等について協議決定しており、協議内容を踏まえ機構本部施設課・整備課との連絡調整を実施しながら、施設マネジメントを推進しており、キャンパスマスタープランの見直しを完了並びに学生寮の整備計画についても、高松キャンパス・詫間キャンパス共に計画を制定している。また、令和8年度概算要求事業の検討及び令和7年度営繕予算要求を実施した。</p> <p>整備としては、学内予算による修繕他、令和6年度補正事業である(香田)共同研究棟改修及び(香田勅使町)校舎改修(機械電子工学系)について、設計業務の発注を実施した。</p> <p>構造体及び非構造部材の状況点検を実施済である。</p> <p>高松キャンパスにて女子学生寄宿舎の浴室給湯ボイラーが故障したため、営繕要求事業として機構本部と協議を実施し、令和7年度に予算配分予定である旨の通知をいただいている。</p>
<p>② 安全衛生委員会等を通じて、安全衛生に関する講習会への受講を促す。「実験実習安全必携」については、学内webページに掲載して周知する。</p>	<p>② 安全衛生委員会等を通じて、安全衛生に関する講習会への受講を促した。「実験実習安全必携」については、学内webページに掲載して周知を行った。</p>
<p>③ 学内各組織より提出された施設修繕等要求について、環境・施設マネジメント委員会にて実施順位を決定することで、必要に応じた整備を推進する。</p>	<p>③ 施設修繕等要求について、予算残額に応じて必要な整備を実施することは出来た。</p>

令和6年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和6年度 実績報告
<p>7. 2 人事に関する計画 (1)方針 ① 外部人材として、引き続き、課外活動指導員、カウンセラー、ソーシャルワーカー、心療内科医を雇用する。また、寮の宿日直業務の一部及び課外活動外部コーチについてアウトソーシングを行う。</p> <p>② 提示された教員人員枠の中で教員配置を行う。</p> <p>③ 弾力的な教員人員枠の活用について検討する。</p> <p>④-1 専門科目担当教員については、原則として博士の学位を有する者を応募資格として教員公募を実施する。</p> <p>④-2 クロスアポイントメント制度について、新たな導入の可能性を検討する。</p> <p>④-3 同居支援プログラムや各種女性研究者支援プログラムなどを積極的に周知する。また、ライフイベントにかかる支援制度を利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行う。</p> <p>④-4 外国人教員(常勤、非常勤)の積極的な採用に努める。</p> <p>④-5 シンポジウム及び研修会への参加、ニューズレターの配布を積極的に行い、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発に努めると共に学内グループウェアにて情報集約する。</p> <p>⑤ 教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、他機関研修にも派遣支援することで資質の向上を図る。 事務職員は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)、機構本部、国及び近隣大学等が実施する研修会へ積極的に参加させる。</p>	<p>7. 2 人事に関する計画 (1)方針 ① 外部人材として課外活動指導員7名、カウンセラー9名、ソーシャルワーカー2名、心療内科医3名雇用了。また、寮の宿日直業務の一部についてアウトソーシングを行った。</p> <p>② 提示された教員人員枠での教員配置を完了させた。機構内で行う高専間人事交流について希望を募ったが、マッチングしなかったため結果として成立していない。</p> <p>③ 弾力的な教員人員枠の運用方針を用いて、令和7年度2名の若手教員(助教)を採用した。</p> <p>④-1 専門科目担当教員については、博士の学位を持つ者を条件に教員公募を実施した。</p> <p>④-2 クロスアポイントメント制度について、新たな導入の可能性を検討した。</p> <p>④-3 同居支援プログラムを積極的に周知した。また、ライフイベントにかかる本校の支援制度、手続情報を学内グループウェア内に集約・共有することにより制度が利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行った。</p> <p>④-4 外国人教員(常勤、非常勤)の積極的な採用を検討し、令和7年度外国人教員(常勤1名、非常勤2名)を採用した。</p> <p>④-5 ニューズレターの配布14件を積極的に行い、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発に努めると共に学内グループウェアにシンポジウム・フォーラム等の情報を集約した。シンポジウムなどについては学生向けへも周知を行っている。</p> <p>⑤ 教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、他機関研修にも派遣支援することで資質の向上を図った。 (本校主催) 新任教員研修:5名 FD・SD研修会:134名(教員62名、職員66名、短時間再雇用教職員・非常勤教職員6名) (機構本部主催)5件、15名 (人事院四国事務局主催)6件、17名 (大学主催)4件、6名 (四国地区高専主催)1件、4名 また、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)から講師を招へいし、加盟校の事務職員を対象にした「チームビルディング」を対面形式で実施した。(参加者:17名(他機関2名、本校15名))</p>
<p>(2)人員に関する指標 常勤職員を各種研修等に派遣することにより、職務能力を向上及び業務効率化を進め、適切な人員配置につなげる。</p>	<p>(2)人員に関する指標 常勤職員を下記の各種研修等に派遣し、職務能力の向上及び業務効率化を進めた。 (機構本部主催) 初任職員研修会:6名 新任課長研修会:2名 学務担当者向けオンデマンド研修:2名 (人事院四国事務局主催) 四国地区中堅係員研修:4名 四国地区係長研修:1名 四国地区管理監督者研修:1名 四国地区女性職員のためのキャリア支援研修:2名 四国地区マネジメント研修:3名 四国地区メンター養成研修:6名 (大学主催) 中国・四国地区国立大学法人等係長研修:1名 国立大学法人等施設担当職員研修会:1名 中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修:2名 中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会:2名 (四国地区高専主催) 四国地区国立高等専門学校技術職員研修(本校当番校):4名</p>
<p>7. 3 情報セキュリティについて 情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。 ① 情報戦略推進本部の指示に従い、情報システムの最適化に取り組む。</p>	<p>① 情報戦略推進本部の指示に従い、連絡会へ参加するとともに、必要事項の学内周知を行った。(9/10連絡会へ参加済み。)</p>
<p>② 法人のデジタル・トランスフォーメーションに持続的に取り組むため、情報担当者を研修に参加させ、人材確保を図る。</p> <p>③ 「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき制定する法人のサイバーセキュリティポリシー対策規則等に則り、令和5年度に受けた法人が行う情報セキュリティ監査の結果及び法人が受けた内閣サイバーセキュリティセンター(NISC)が実施するNISC監査の結果の機構本部による評価を、香川高専にて評価し必要な対策を講じる。</p>	<p>② 情報担当者研修の連絡があり、研修に参加した。国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)主催のプレCYDERを受</p> <p>③ 情報企画課の指示に従い、対応を進めた。(第4回企画運営会議「香川高等専門学校サイバーセキュリティ管理規程の改正」など)</p>
<p>④ 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、機構本部の指示に従い、情報セキュリティ教育及びインシデント対応訓練等を実施する。また、機構本部が実施する、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなど、職責等に応じて必要となる情報セキュリティ教育に参加する。</p>	<p>④ 機構本部の指示に従い、情報セキュリティ教育及びインシデント対応訓練を実施した。また、機構本部が実施する、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナー(1回、受講率100%)に参加した。</p>
<p>⑤ 複雑化する情報セキュリティリスクに対応するために、最高情報セキュリティ責任者(CISO)及び機構本部情報戦略推進本部情報セキュリティ部門の指示に従い、今後の情報セキュリティ対策を進める。</p>	<p>⑤ 機構本部の指示に従い、情報セキュリティ対策を進めた(「学生寮向け 外泊・点呼・欠食システム」改修、DNSのCNAMEレコード確認)。</p>
<p>⑥ 国立高等専門学校機構CSIRT(KOSEN-CSIRT)に協力し、インシデント内容及びインシデント対応の情報共有を行うとともに、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、情報セキュリティインシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。</p>	<p>⑥ KOSEN-CSIRTに協力し、教職員へ周知した。(メール「長期休暇における緊急時に備えた体制等の再確認」、「Apple社製端末のOSの利用可否の基準について」、「電子メールのなりましの防止策の再確認」、第1回各キャンパス教員会議「「すぐやる3箇条」の確認について」、ほか各キャンパス教員会議における動画マガジンバックナンバーの紹介)</p>
<p>7. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 必要に応じ、機動的にWEB会議システムを活用した各種校内会議を実施し、校内での情報共有を図り、意思決定を迅速に行う。</p>	<p>7. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 機構としての迅速かつ責任ある意思決定を実現するため、WEB会議等を活用し各種校内会議を実施し、情報共有及び意思決定を迅速に行った。</p>
<p>①-2 校長・事務部長会議及び企画委員会等において示される課題や方針等について、速やかに学内での情報共有を図る。</p>	<p>①-2 校長・事務部長会議及び企画委員会等において示される課題や方針等について、都度メール、資料の回覧、企画運営会議及び教員会議での報告等により速やかに学内での情報共有を行った。</p>
<p>①-3 各種会議において、必要に応じ本校の状況・意見等を発信する。</p>	<p>①-3 第4ブロック校長会議(第1回6月4日開催、第2回10月18日開催、第3回3月4日開催)四国地区国立高等専門学校校長・事務部長会議(第1回5月7日開催、第2回2月21日開催)、各種部課長会議等において、本校の状況・意見等を発信した。</p>
<p>②-1 理事長と校長との面談等において、本校の状況・意見等を発信する。</p>	<p>②-1 8月26日に実施された理事長ヒアリングにおいて、本校の状況・意見等を発信した。</p>
<p>②-2 新任教職員を対象にしたオリエンテーション、全教職員を対象にしたコンプライアンス研修を実施し、コンプライアンスの意識の向上を図る。また、機構本部が実施する階層別研修や各種説明会に参加するとともに、機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用し、自己点検を行う。</p>	<p>②-2 新任教職員を対象にしたオリエンテーションを実施し、コンプライアンスの意識の向上を図った。また、機構本部が実施する階層別研修や各種説明会に参加するとともに、機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用し、自己点検を行った。</p>
<p>②-3 発生した事案に応じ、法人本部と十分な連携を図り、速やかな情報伝達・対策を行う。</p>	<p>②-3 発生した事案に応じ、法人本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達を行い適切な対策等を講じた。</p>
<p>③ 公的研究費に関する内部監査マニュアルに基づき内部監査を実施し、監査結果については、情報共有し、効率的・効果的かつ多角的な監査が可能となるよう、監査項目の見直し等について検討する。</p>	<p>③ 機構本部作成の「公的研究費に関する内部監査マニュアル」に基づき、キャンパス間相互会計内部監査を2月頃に実施する予定であり、規則に則った会計事務処理の確認及び運用上におけるキャンパス間での整合性を確認し、課題が発見された場合は、速やかに見直し、解決を図る予定である。</p>
<p>④ 「公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「高専機構公的研究費不正防止計画」に基づき、公的研究費等の不適正経理を防止する。</p>	<p>④ 公的研究費等の不正使用の再発防止策を徹底するため、年度当初(4月)に新任教職員を対象とし研究費等不正使用防止に関する説明を行っている。また、9月には全教職員を対象とした「コンプライアンス研修」において、研修動画の視聴及び確認テストを実施し、オンラインで研究費等不正使用防止対策の取り組みを行った。</p> <p>4半期に1度、公的研究費不正使用を行わない風土づくりのための啓発メールを送付している。</p>
<p>⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、香川高専の年度計画を定める。</p>	<p>⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、香川高専の年度計画を定めた。</p>